

第3学年2組 学級活動（2）指導案

11月14日（金）第5校時

1 題材 「本当のなかまを目指して」 学級活動（2） ウ 望ましい人間関係の形成

2 題材について

（1）学級の実態（男子17人 女子17人 計34人）

本学級の児童は、明るく素直で助け合って取り組む児童が多い。例えば、給食係の一人が当番の時は係内でフォローし合ったり、他の児童が協力したりする場面がよく見られた。また、配布物が多い時は多くの児童が快く手伝うなど、学級全員に役立とうと一生懸命に取り組んでいる。しかし、中学年のギャングエイジの発達段階でもあるので、仲良しの友達同士でくっついて行動するなど人間関係が固定したり、男女間の交流が少なかったりするように感じる。友達とケンカして手が出たり、言葉遣いが悪くなったりすることもあった。友達のためを思って注意しても反抗するような言い返しをしたり、休み時間の遊びや放課後遊びの仲間に入れてくれなかったりすることがある。友達関係でもめたことを小さなことまで報告し、担任が仲裁に入らないと解決することができないこともしばしば見られた。自分と友達の思いを聞き合って解決することが難しいからである。つまり、児童同士が本当の意味で信頼関係を結ぶことができていないので、友達に自分のできていない部分を指摘されると受け入れることが難しいのである。学年目標の「なかま」を実現していくためには、学級の34人が他者を認め合ったり、確固な信頼関係を結び合ったりすることで、本音で語り合うことができる関係にならないといけない。学年目標の「なかま」とはどのような関係なのか今一度話し合い、学年目標が実現できるようにしていきたい。

（2）題材設定の理由

学年目標の「なかま」とはどのような関係か話し合う場を設けた。一人一人が考える仲間のイメージをキーワードでつなぎ合わせると、「男女関係なく遊ぶこと」、「なんでも相談し合うこと」、「助け合うことが当たり前であること」がわかった。「男女関係なく相談し、助け合う34人の学級」を後期のめあてにすることで、人間関係をよりよくしようとする態度を養っていきたい。次に、後期のめあてに向けて学級の問題点をワークシートにかき出して集約すると11個となった。さらに、この中から特に話し合いたい問題について5段階で点を付け、整理すると（表1）のような結果になった。

（表1）

話し合いの重要度	問題
1	係が一生けん命にやっているのにしらんぷりするのは問題だ。
2	友達や自分の悪口を聞いたことがあるので解決したい。
3	男子は男子で、女子は女子でかたまることがあるので、話し合いたい。
4	なかまに入れてくれないのは問題だ。
5	注意をしても反対におこられたことがあるので解決したい。

6	人の話を聞いていなかったり、聞こうとしなかったりするのとは問題だ。
7	友達によくないことをしてしまったのにあやまらないのは問題だ。
8	こそこそ話をしているのは問題だ。
9	相手を思った言葉づかいができていないのは問題だ。
10	話しかけたのに無視されたことがあるのでかいけつしたい。
11	友達にまかせてしまうのはよくない。

(*話し合いたい問題順に並び変えてある。)

特に話し合いたい問題の三つについて理由を調査すると、(表2)の結果となった。

(表2)

(1) 係が一生けん命にやっているのにしらんぷりするのとは問題だ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・何回も注意を呼びかけているのに行動しない。 ・音楽係がリコーダー吹かないでとっているのに吹いている。 ・給食係のもぐもぐタイムの呼びかけを守らない人がいる。 ・係の中でやる人と遊んでいる人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しずかに。」といってもしらんぷりして話している。 ・よくできた賞(折り紙)を一回だけもらってその場で終わりの人がいる。
(2) 友達や自分の悪口を聞いたことがあるがこれは問題だ	
<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇はうざいよね。 ・頭が悪いね。 ・〇〇死ね ・女子が男子の悪口を言っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の△△はやだね。 ・〇〇はバカだよ。 ・廊下で〇〇の悪口を言っていた。
(3) 男子は男子で、女子は女子でかたまることがあるので、話し合いたい。	
<ul style="list-style-type: none"> ・男子だけで遊ぶことが多い。 ・女子は入れるけど、男子は入れない。 ・女子は入れるけど、男子は入れない 	<ul style="list-style-type: none"> (・恥ずかしがって手を挙げられない) ・なかよし同士でグループを作っている。

日常の学校生活の様子からは相手を大切にしようとする気持ちはあるが、その気持ちが行動に表れていないことがわかる。つまり、集団という視点よりも個(自身)の視点が強いために他者への心配りが足りていない。表1の特に話し合いたい問題となった「係が一生けん命にやっているのにしらんぷりするのとは問題だ。」については、係担当の児童がどんな気持ちで取り組んでいるのかを考えていないからである。また、係の仕事に対する責任をもって取り組んでいる児童とそうでない児童がいることも原因になっている。さらに折り紙という賞をもらうために一時的に努力するだけで、係の活動の本質を理解して取り組んでいないことが問題となっていることがわかる。そこで、係児童の思いを全員に伝えることで、友達の努力に応えていくことが本当の仲間であることに気付かせたい。また、係活動を友達に任せて行うことは責任を放棄していることでもあり、自分本位な行動あることに気付かせることで、仲間の意味を確かめさせたい。

2番目に話し合いたい問題の「友達や自分の悪口を聞いたことがあるので解決したい」については、

もめたりケンカしたりすることで、起きることが多いとわかった。話合いに立ち会うとなんのために悪口を言ったのか本人もわからないことがしばしばある。悪口を友達に言うことで、仲間を作ろうとしていることに気付いていないことが問題であり、放置してしまうとグループ同士の対立を引き起こしかねない。そこで、悪口を言うことは自分の苛立ちを解消していることであることに気付かせることで、仲間を作っていくこととは逆方向に向かうものだと気付かせていきたい。

3番目に話し合いたい問題の「男子は男子で、女子は女子で固まるのは問題だ」については、休み時間の遊びや小グループでの談話が男子同士・女子同士で行われることが多かったり、仲間に入れようとしなかったりすることが、男女関係を固定し、広がらない原因となっている。そこで、男女一緒になって様々な活動を行っていくことが男女間の壁を取り払うことに繋がり、心の距離を縮めていくために必要なことだと気付かせていきたい。

本当の意味で分かり合える人間関係とは、互いの思いや願いの違いを受け止められる関係である。自己主張ばかりでなく、相手の思いを受け入れた上で自分の考えを伝え合うことができる児童を育てて生きたい。人間関係で悩み苦しむのではなく、自ら望ましい人間関係を築こうとする態度を養う授業を行いたい。

3 研究主題とのかかわり

研究主題

「自主的、実践的に活動し、生きる力を身につけた児童生徒の育成」
～主体的・対話的な深い学びを見据えて～

研究目標

学級活動等の集団活動に自主的、実践的に取り組む態度を育成するとともに、育てたい資質・能力を明確にし、次期学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」につながる指導の在り方を探る。

研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、集団の実態を踏まえ、一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし、活動の過程を具体的につかませ、活動に取り組みせれば、児童生徒の集団の帰属意識や活動での達成感が高められ自主的、実践的態様が育つであろう。
- (2) 学級活動等の集団活動において、課題の設定・確認、解決方法の話合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、目指す資質・能力を明確にした上で意図的・計画的に指導に当たれば、深い学びにつながるだろう。

本授業では、仮説(2)についての検証を試みることにする。

4 研究の視点

(1) 主体的な課題の設定や学習過程の捉え方

つかむ段階では学年目標の「なかま」を具体化した学級の後期のめあてを実現していくために、学級の問題点について話し合っていくことを意識付けていきたい。そのために、アンケート調査から学級で解決したい題材を一覧にして掲示し、特に話し合いたい三つの問題について原因を探り、解決策を見付け、集団思考による自己決定をできるようにしていきたい。予め、題材を知らせることで問題意識をもたせたり、関心を高めて学習に臨めたりすることができるようにする。また、事前に問題の所在をワークシートに書かせることで、「見付ける段階」の話し合う時間を確保する。

さぐる段階では、「係が一生けん命にやっているのにしらんぷりするのは問題だ。」「自分の悪口を聞いたことがあるがこれは問題だ」「男子は男子で、女子は女子でかたまることがあるので、話合いたい。」についてどうしてこうなっているのか考えさせていく。その際、三つを色分けして整理していくことで、問題と原因が結びつくようにする。また、児童の発言を簡単なキーワードで板書していくことで、思考が整理できるようにする。

見付ける段階では原因と解決策を左右で比較できるように板書を工夫する。原因と解決策を線や矢印で関連付けることで、話し合うことの中に沿って考えることができるようにする。また、話合いが停滞してしまう場合は、ペアで相談する時間を設けたり、本当のなかまになっていくためにどんな心構えが必要か、どんな関わり方が本当の仲間と呼べるのか問いかけたりすることで、考える視点をもてるようにしていく。

決める段階では、問題、原因、解決策が一つの流れで示された板書を参考にさせることで、自分に合った自己決定ができるようにする。本当の仲間になっていくために、自分に足りないものを選ぶように声を掛けていきたい。決めためあてを「がんばりカード」に書かせ、発表させることで、日々の実践意欲を高めていきたい。

(2) 多様な他者と協働する対話的な学びを充実させる手立て

○話し合う視点の明確化

学級活動(1)の学級会においては、話し合うことのねらいから外れて議論が進んでしまったり、細かい点について議論が活発になってしまったりしたことがあるので、児童の意見がかみ合って話合いが進んでいくようにしていきたい。そこで、つかむの段階では、学年目標の「なかま」に向けた学級の後期のめあてである「男女関係なく相談し助け合う34人の学級」を目指していくために学級の問題を話し合っていくことを確認させる。後期のめあてを掲示することで、常に視覚に訴えて話合いが進むようにしたい。また、「つかむ」「さぐる」「見付ける」「決める」で進んでいく見出しを付け、学習の道筋が一目でわかるようにすることで、話し合う内容について全員が共有できるようにする。さらに、「さぐる」「見付ける」の段階では、発言や質問するタイミングを理解できるようにハンドサインを用いることで、児童の発言によって、自己の考えを深めていくことができるようにする。

○行動目標の具体化

児童の揉め事や時間を意識して行動することなど生徒指導的な内容について、指導を重ねているが、態度を改めて継続して学校生活を送ることが難しい。原因を考え、どのように行動していくかめあてをもたせて取り組ませているが、定着する児童とそうでない児童がいる。それは、教師から与えられた問題であるために、子ども自らが学級の課題として捉えていなかったり、具体的な行動目標でなかったりしたことが原因と考えられる。そこで、児童自ら考えた学級の問題点を題材にして話し合い活動を構成していく。また、「係の話を真剣に聞く」などの抽象的なめあてではなく、「だまって聞く」など具体的な行動目標を見つけていくことで、児童の考えを深めていきたい。

5 評価規準

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・表現	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

6 事前の活動

日程	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10月27日 (帰りの会)	・特に学級で話し合いたい問題について調査する。	・学級の後期のめあてを達成するために、特に学級の問題として考えるものを選ぶように確認する。	【思考・判断・表現】 ・特に解決しなければならない問題を選んでいる。 (ワークシート)
11月1日 (学級活動)	「本当のなかまを目指して」という題材を知り、二つの問題について原因を探り、解決策を考えて実践する。	・一覧表にして4、5番目から問題を解決していくことが、学級のめあてを達成していくことに繋がることを押さえる。	【思考・判断・表現】 ・学級のめあてに向けてよりよい解決策を考え、実践しようとしている。 (ワークシート・発言)

7 本時の活動

(1) 本時のねらい

○学級の問題点に関心を持ち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。

(関心・意欲・態度)

○問題の原因を話し合い、自分に合ったより解決方法を考え、判断し、実践している。

(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

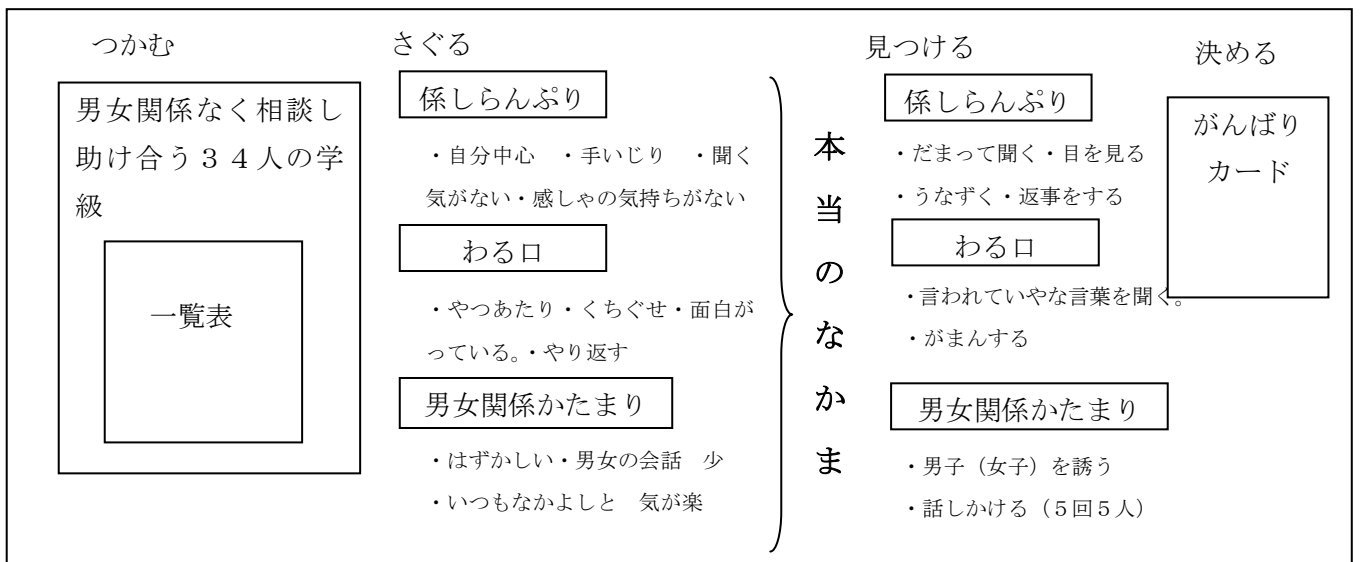
過程	児童の活動	指導上の留意点と評価 (◇)
つかむ	<p>1 後期のめあてに向けて特に話し合いたい題材について確認する。</p> <p>○係が一生懸命にやっているのにしらんぷりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食係がもぐもぐタイムを呼びかけているのに話す人がいる。 ・音楽係がリコーダーを吹かないでと言っても聞かない。 <p>○友達や自分の悪口を聞いたことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○はバカじゃないの ・○○はうざいよね。 <p>○男子は男子で女子は女子で固まることが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子には関係ないから入ってこないで。 ・遊びのなかまにいてくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に題材について告知することで、題材について問題意識をもたせ、関心を高めさせる。 ・具体的にどんなことがあったのか発表させることで、経験したり、見たりしたことがある問題だと意識付ける。 <p>◇係活動や悪口、男女関係について問題意識を持ち、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p>
さぐる	<p>2 どうしてこうなっているのか話し合い、問題の所在を明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>係が一生懸命にやっているのにしらんぷり</p> </div> <p>〈原因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手いじりして話を聞いていないから。 ・聞く気がないから。 ・自分中心になっているから ・自分には関係がないと思っているから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達や自分の悪口を聞いたことがある。</p> </div> <p>〈原因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪口を言ってスッキリしたいから。 ・同じ気持ちの友達が欲しい。 ・面白がっているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの問題点ごとに色を分けて使うことで、問題の所在がどれに対応しているかわかりやすくする。 ・事前に問題の原因についてワークシートに書かせることで、見付ける段階の話し合う時間を確保する。 ・予想される回答についてはカードにして、スムーズに進むようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・口癖になっているから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 男子は男子で、女子は女子で固まることがある。 </div> <p>〈原因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はずかしいから。 ・男女の会話が少ないから。 ・気が楽で安心したいから。 ・仲よし同士でいつもいるから。 	
見 つ け る	3 全員で話し合い、どうしたら本当のなかまにな っていけるか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 係が一生懸命にやっているのにしらんぷりしている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・係の友達が発表している時は、返事をする。 ・係の友達が発表しているときは黙ってきく。 ・うなずいたり、目を見たりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 友達や自分の悪口を聞いたことがあるがこれは問題だ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな言葉が嫌か聞く。 ・言い返さない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 男子は男子で、女子は女子で固まることがあるので、話し合いたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・男子（女子）を誘って遊ぶ。 ・ほっとタイムはみんなで遊ぶ。 ・どうしてもダメな時は言い方に気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原因と解決策を比較できるように、板書を工夫して書くことで、解決ができるようにする。 ・原因と解決策がどのように対応しているか線で結びつけることで、未解決の問題が一目でわかるようにする。 ・考えが停滞したときには、ペアで相談する時間を設けることで、アイデアが活発にできるようにする。 ・話の観点がずれそうな時は学年目標と、後期のめあてが達成できるようにするためにどんなことをしていくか問いかけることで、話し合うことの中からそれないようにする。 <p>◇係活動や悪口、男女関係の問題について、解決策を考えている。(思考・判断・表現)</p>
決 め る	4 自分に足りないところ、できていないところを選び、努力できそうな目標を決める。 5 互いに自分の努力することを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の課題を確認できるようにし、実現できそうなめあてを決めることができるように伝える。 ・どの児童のめあても称賛することで、努力していこうという気持ちをもたせる

8 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 自分の立てためあてや取組などについて振り返る。 友達同士で取組を確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いの頑張りを認め、励ましながら、実践の継続を図るようにする。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を参考にしながら、よりよい解決方法について考え、どのように生活に生かしていきたいか具体的なめあてを考え、<u>進んで実践している。</u> <p>(頑張りカード・観察)</p>

9 板書計画





本当のなかまを目指して

3年2組 名前(

)

1. どうしてこうなっているの？

1	係が一生けん命にやっているのにしらんぷりしているのはどうしてだろう？
2	友達や自分のわる口がでるのはどうしてだろう？
3	男子は男子で、女子は女子でかたまることがあるのはどうしてだろう？

2. めあてを決めよう！

3. やってみよう！

11/15(水)	11/16(木)	11/17(金)	11/20(月)	11/21(火)

4. できたこと、もっとこうしたいこと



